

戦争を知らない世代として

読谷中学校二年 桜田 菜緒

私は、戦争を経験していません。あたり前のことですが、戦争のとき、私はまだ生まれていませんでした。しかし、これまでに戦争を経験したおじいさん、おばあさんのお話を何度も何度も聞きました。戦争の話をしてくださった方々は、みんな、  
「本当は思い出したくなかったけど、二度とあんなことはイヤだから。」

と言ってから話していました。その頃の私は、  
「思い出すのがイヤなら、話さなければいいのに。」  
としか思っていました。しかし、話をする方の思いはそんな軽いものではなかったのです。

ある日、新聞に小学校でお話をしたおばあさんについて書かれた記事がのっていました。  
「私が話したことを子ども達が語り継いで、  
明るい未来を作ってほしい。」  
と言っていて、おばあさんは戦争の辛い記憶を話

してくれました。

そのことを知ってからはおじいさん、おばあさんは自分たちが亡くなった後、私たちの未来を心配して、私たちの事を考えてくれて、いるのだから、すっかり話を聞いてその気持ちにすっかりと答えるようにしなければいけないと思うようになりました。

戦争を経験している人たちは、私たち世代に自分たちの思いを打ち明けて、日本の明るい未来を私たちに託してくれていると思います。

だから、多くの人におじいさんやおばあさんから聞いた話をしていきたいです。

あの戦争から、六十五年以上たちます。戦争を経験している世代は、ほとんどが七十歳を越え、いつかは戦争の話が聞けなくなってしまうと思います。私は、小さい頃聞いた話をすっかりと聞いておけばよかったです。後悔していません。だから今からでも、もっともつと経験者の話を聞いて、いろんなことを学んでいきたいです。

この先、戦争を経験した人々がいなくなり、  
「戦争は二度と繰り返してはならない」と訴  
える人もいなくなったら、どのようなことが  
起こるのでしょうか。今まで通り、平和に暮ら  
せるでしうか。

六十五年前のあの戦争で、戦いが始まる前  
に「戦争はだめだ！」と声をあげた人がいた  
そうです。私はそんな人を尊敬したいです。  
もし今、六十五年前のようなことが起こり  
そうになっても、「戦争はダメ」と声をあげ

る人は絶対に多いと思います。それは、戦争  
を経験した人々が、戦争の恐ろしさを私たち  
の世代に伝えてくれているからです。  
おじいさんやおばあさんが話してくれたこ  
とを、私たちの世代で止めてしまふと意味が  
ないと思います。今度は、私たちが戦争の恐  
ろしさを伝える責任があります。おじいさん  
やおばあさんの思いをしつかりと受け止めて、  
そして私たちの思いも足して、次の世代へ語  
り継いでいきたいと思ひます。

「語り継ぐ」それが私たちの役目であり、戦争で亡くなった方への追悼になると思います。